

## 第7回東京都人権施策に関する専門家会議議事概要

開催日時：令和元年7月1日（月曜日） 15時30分～17時30分

開催場所：東京都庁第二本庁舎 31階特別会議室 25

- 《出席》 江上千恵子委員、大江近委員、後藤千恵委員、佐藤佳弘委員、  
戸松秀典委員、菱山謙二委員、本澤巳代子委員、山脇啓造委員（以上8名）  
《欠席》 石渡和実委員、鶴田幸恵委員、（以上2名）

### ○ 議題

- (1) 前回会議（6回）の意見に対する報告及び今年度の人権啓発事業説明  
啓発動画2本（ヘイトスピーチ・LGBT）の視聴

#### 【委員からの主な意見】

- ・ヘイトスピーチの動画のイラストが一部わかりにくい。
- ・LGBTが何かということを知らなくても、人として、尊敬してつきあうという一番単純なことが抜けてしまっている感じがする。
- ・教育の場では男女別について無頓着なところがある。
- ・書類においても不要な男女の区分けが多い。

- (2) その他

- ①東京を訪れる外国人や、外国人労働者受入れ拡大に伴って東京都の在住外国人の増加が予想される中、外国人と日本人がお互いを尊重し合いながら共生できる社会を築くために、どのように人権啓発を進めていけばよいか。

#### 【委員からの主な意見】

- ・外国人を親に持つ子どもの話を取り扱ってほしい。
- ・今回の外国人労働者受入れは、労働力不足からきている。子どもやコミュニティのことは考えていない。日本人より安い賃金での雇用が目的である。
- ・技能実習生の問題にはいろいろあるが、転職の自由がないのが特に問題である。
- ・労働力不足だというのがA Iを取り入れれば回避できる分野もある。
- ・外国人について、以前は差別はいけないという教育が多かったが、最近は外国人が住むことでこんな風に街が変わってきたというプラス方向の学校の実践がみられる。啓発の効果があったのでは。
- ・企業啓発を。違法なことがあった場合の罰則をどうするかというのも非常に重要。
- ・交流事業も啓発の1つではないか。
- ・今、既に住んでいる外国人の方々に、いかに日本人とともに地域づくりの担い手として、ともに活躍していただける社会を作っていくかといった視点も今後は必要。東京都に住んでいる外国人にはそれなりの活躍をしている人の割合が多い。
- ・今のところ外国人が活躍する場づくりというよりは、外国人への生活支援の取組が多い。

- ・外国籍の児童・生徒及び外国ルーツの児童・生徒の存在を視野に入れた取組が必要。
- ・ビデオは有効な手段。5年くらいで新しいものを作成したほうがよい。できれば、英語、中国語、韓国語の字幕をいれたい。
- ・都内で活躍している外国人、地域社会に貢献している外国人に関する表彰制度をつくり、外国人の活躍で、東京が豊かになっている、活力になっているという発信をするのも良い。
- ・外国人とのコミュニケーションを取る上で、わかりやすい表現を使った「やさしい日本語」は有効なツールである。
- ・双方が双方の違いを知っておく必要がある。お互いの違いをしっかりと情報発信してほしい。

②A I等新しい技術の進歩やインターネットによるコミュニケーションがより進展する中で、新しい技術を活用した人権啓発にはどのようなものが考えられるか。

**【委員からの主な意見】**

- ・費用対効果を考えて、10年後の話ではなく、今の技術をどこまで有効に活用するかを考える。
- ・今使っている技術のほかの様々な技術は、人権啓発において①情報発信（動画広報はとても重要）②双方向での相談対応③情報の収集の3つの使い方がある。
- ・人権啓発に動画を役立てるには、多くの人に見ていただくことが必要。
- ・A Iを活用して情報を分析し、自動的に効果的な啓発情報を作成する。
- ・一定のA Iについては法制度上、限界を与えるようにしておかなくてはいけない。
- ・人権啓発教育では、学校教育の役割は非常に大きい。子ども版の「みんなの人権」があると良い。子どもが学べるような内容を工夫し人権問題の理解啓発ができればよい。